



図書日和 6月号



6月は梅雨の時期です。雨模様が続くこともあり、室内に籠る時間が多くなってきました。また、期末テストもあり余計に室内に入り浸る時間が増えたように思います。そんな時期だからこそ本を読み、テスト勉強の気分転換や室内での無駄な時間の浪費を無くし、この憂鬱な時期を楽しく過ごしてほしいと思っています。そこで、この雨の期間を乗り切ることのできるおもしろい本を用意しました。ぜひ、図書館まで足を運び、ご覧になってみてはいかがでしょうか。

「檻の中のライオン」

著：椋大樹

弁護士である椋大樹さんが普段あまり憲法に触れることのない私たちに向けて憲法のことをわかりやすく書いてくださった本です。国家の権力をライオン、憲法を檻として例えて、私たちと憲法の関係性をあまり憲法の知識が無い人にも分かるように説明されています。

普段は興味を持たない憲法の話ですが、時にはなぜこの憲法があるの？この憲法を守らなければならないの？と思うことがあったりするのではないのでしょうか？そんな時に是非読んでもらいたい一冊です。



「本当にある！変なことわざ図鑑」

文：森山晋平 イラスト：角裕美

この本は本当にある 350 種類以上の変なことわざを集めた図鑑です。1つ1つのことわざについて教訓、豆知識、類句などが面白おかしく、そしてわかりやすく紹介されています。

「変なことわざ」はテストにも出ないし、仕事にも使えません。しかし無駄な知識だけ知っていればなんだか楽しいし、友達や家族と話せばきっと盛り上がるはずです。ぜひ一度この本を読んでみてください。



大野先生へのインタビュー

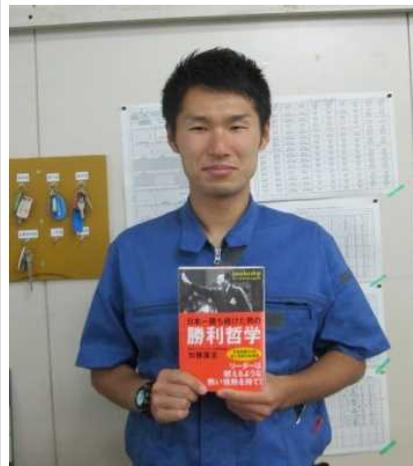
今回は E3A の担任の大野先生の普段読まれている本を紹介します。

「日本一勝ち続けた男の勝利哲学」

著：加藤廣志

全国優勝50回以上。バスケットボールの名門能代工業高校の監督であった加藤前監督の情熱に胸を打たれる作品です。彼が就任した当初は、全国的に全くの無名と言ってよかった能代工業高校が、彼の就任約7年目で、初めてとなる全国優勝を果たし、見事全国に名を轟かせ、能代のバスケの歴史にその名を刻んだ監督の熱意が伝わる一冊です。

「驕(おご)らず日々挑戦」という彼の熱い志が秘められた言葉も出てくるので、是非読んでみてください。



図書委員植松さん(E3A)のオススメ本

「終わりのセラフ」

著：鏡貴也

主人公である一瀬グレンが入学したのは、渋谷にある呪術師養成学校でした。そこにいるのは、有名なエリート子女ばかりで、身分の低いグレンは胸に野望を抱きながらも、クズだと嘲られながら過ごす日々を送っていました。

そんな日々の中、婚約者と名乗る少女がグレンの前に現れます。そこから、グレンは様々な陰謀が渦巻く世界に身を投じていくことになります。環境に振り回されながらも、必死に生きるグレンを見るのが楽しい作品です。



令和クイズの答え

前回載せてあった令和クイズの答えは

3.菅義偉官房長官 です。

皆さんわかりましたか？このように令和のクイズを探してみてください。